

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2023年7月1日 238号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第4回エスペランサ村教育プロジェクト



チャパボラ青年からルールを教わり、どろけい(鬼ごっこの一種)を楽しむエスペランサの子どもたち。6月9日



この苗木が大きく育って、花が咲き、実が成りますように。



小中学校の校長先生、高校の校長先生との対談。6月9日

勉強のための植樹、教育のための遊び

先月号に続き、チャパボラ青年からの現地レポートです。

第4回エスペランサ村教育プロジェクトは、6月9日に行いました。プログラム内容は、植樹活動、小中学校の校長先生ならびに高校の校長先生との対談、清掃活動、遊びです。

●植樹活動は、エスペランサ村の教師、高校生、レダのチャパボラ、スタッフが協力して、学校に10本のニームの木、6本のアセロラの木、5本のグレープフルーツの木を植えました。

ニームの植樹は、涼しい木陰を作るため、コルマン校長先生の願いを受けて行ったもので、教室の窓のすぐ外に植えました。昨年は、青年奉仕隊活動の一環として、高校の教室内に布のカーテンを取り付けてあげました。今回植えたのは、緑のカーテン。すくすくと育てば、授業にいつそう集中できることでしょう。

エスペランサ村の土は塩分が濃くて、木が枯れてしまうことがあります。そこで、青年たちが肥料を持ってきてくれ、それを使って植えることができました。今回の植樹は、エスペランサ村の人々の「木を植えて欲しい」という強い願いと、村の子供たちの協力があつて実現しました。住民たちの思いに込められたで、彼らとしっかり協力でき、良い活動になりました。

●小中学校と高校の両校長先生との対談で、高校の校長先生ホセ・オルメ(José Olme)さんは「子どもたちが間違った方向に行かないように人格教育を行ってほしい」「以前、統一武道の先生が統一武道を教えに来てくれて、とても好評だったので、またあの先生に来てほしい」とのことでした。また小中学校の校長先生コルマン・カパタイ(Colman Capatay)さんは「農業や養殖など、技術教育もしてほしい」「教育につながる遊び、集中できる活動がありがたい」「月に一回でなくても、毎週来てくれてもいいんだけどね」と語っておられました。

●今回の清掃活動には、エスペランサ村の子どもたち25人が参加しました。回を重ねるごとに、参加人数が増えています。

●今回の遊びは、チームワークが勝敗を左右する、チーム戦形式のゲーム(しっぽとり、どろけい、リレー等)を中心に、村の子どもたちと日本人合わせて22人で行いました。ルールを理解できたら、チームで協力しながら全力で楽しむ姿がありました。

このエスペランサ村教育プロジェクトは、エスペランサという小さなコミュニティの枠を超えて、発展する可能性のあるものだと思います。それは、私たち2世代がこれから世界で担っていく役割を考えると、その果たし方の一つのモデルになると思いますので、これからも継続的に頑張っていきます。

レダ基地スナッフ



養殖の業務は、かなりの力仕事です。6月1日



パクーの養殖池。水揚げ、計量、締め、冷却をテキパキと。6月1日



貨物船トレス・エルマノスから荷を揚げて。6月5日



よく管理された乾物倉庫。



エスペランサ村の子どもたちと清掃活動を終えて。6月9日



大きなゴミ袋を持って。6月9日



パブロさん(右2)が作ってくれたコシード。5月28日



グレープフルーツ収穫。5月31日



エスペランサの学校にニームを植えます。



水性ペンのアート。



お店屋さんごっこ。



バナナ餅を作りました。3月8日



絵本で地球温暖化の学習。5月26日

島田家庭とチャパボラ子どもたちの教育

「チャパボラ二期生の女性が、子どもたちの学習のお世話役として、島田家庭で奉仕し、好評です。以下、本人からのレポート」

島田家はサドベリースクールの教育方針(子どもたちが自ら学ぶ力を信じ、こちらから教えるのではなく、子どもたちの自主性を信じて見守る教育方針)をとっています。

そのため、遊びの中で学習できるように工夫する必要があります。学習スゴロクや、学習カルタ、お買い物ごっこができる教材など、遊びながら学習できる教材をできる限りたくさん作りました。

その教材を使い、遊びの中で教育を行えるように努力しました。また、子どもたちが楽しめるような制作やクッキング、身体をたくさん動かす遊びなども行いました。

子どもたちの笑顔にはいつも癒やされます。今後子どもたちのことを応援していきます。



南米遠望 (3)

和田賢一

注目される南米横断道路

一口で南米と言っても広い。北米大陸と南米大陸をつなぐ細いパナマ地峡の南端から、南極を目前にするチリのホーン岬まで、さらに太平洋と大西洋に挟まれた巨大な大陸です。西部には南北8500キロにわたるアンデス山脈が走り、北部はアマゾンの密林地帯。その南には世界最大の湿地帯のパンタナールが広がっています。残る東南部の広大な大地に4億2000万人が住み着き、12の国家によって統治されているのです。

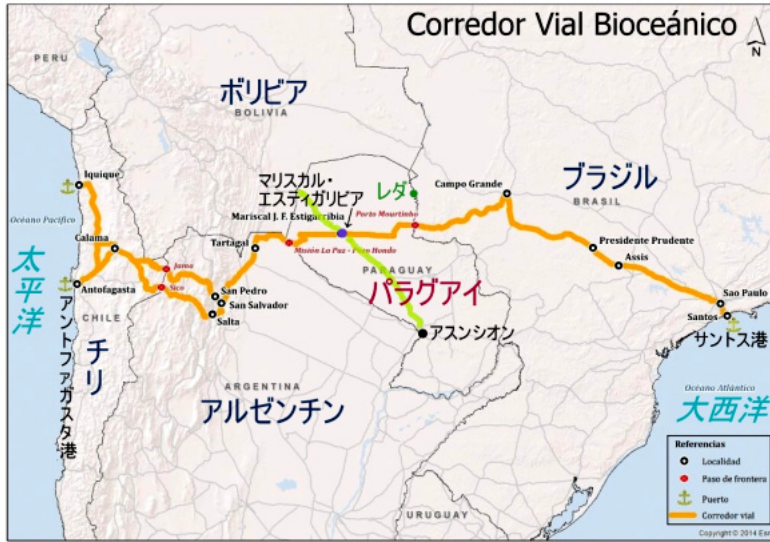
この巨大な大陸の交通手段と言えば「点」と「点」を結ぶ飛行機が挙げられますが、鉄道は発達していません。したがって車による移動が主流となり、「線」の役割をしているのです。しかしそれには限界もあるのです。

そのような地理的な厳しさを抱えた南米に一つの光が差し込んでいます。大陸横断道路の建設が進んでいるのです。総延長2945キロのこの回廊は、パラグアイとアルゼンチンを経由してブラジルの港とチリの港を結ぶものです。内陸国のパラグアイは、唯一海に出る「道」といえば、パラグアイ川を活用した「海運」しかありません。大陸横断道路はパラグアイを横断、その一部道路が完成しているのです。極端に人口の少ないチャコ地方の開発計画の第一段階がスタートしたと言えるでしょう。

ことの発端は、2015年4月、第49回メルコスール首脳会議においてアルゼンチン、ブラジル、チリ、パラグアイの首脳が新しい道路である「南米大陸横断回廊」の建設に合意したことに始まります。メルコスールというのは、南米南部共同市場と言われ、1991年に設立されました。欧州共同体(EU)の経済版のようなもの。発足当初、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ベネズエラで構成、その後はベネズエラが資格停止、他の国が準加盟国というような構成となっています。

2018年3月、4億2100万米ドルの金額でブラジル・パラグアイの企業のコンソーシアム(共

同体)との間で、パラグアイにおける「南米大陸横断回廊」建設の第一段階の契約が締結されました。その計画が進み、ブラジルとパラグアイの国境であるパラグアイ川に架かる橋が完成したのです。それ以外にもパラグアイ側の道路が急速に整備されていきました。第一段階では、チリとアルゼンチンを結ぶ全長14キロのアグア・ネグラ・トンネルの建設も含まれていますが、当初の計画では2023年、今年には完成するとされていたところ、両国のさまざまな事情によって幾度も延期され、見通しは立っていません。



て、パラグアイとブラジルの物流を軌道に乗せたい意向。パラグアイの公共事業通信省によると、大型車両の移動に耐えることができる、安定した強固な道路づくりを目指しているといっています。また同省は、現在の幹線道路で輸送される物量の3倍にあたる約500万米ドルもの経済価値を生むと見えています。ここで問題となるのは、南米の中央部のグランチャコと呼ばれる100万平方キロメートルの地域の自らが保護されるのかという点です。その面積の25%

はパラグアイが占め、残りの部分はボリビア・ブラジル・アルゼンチンに広がっています。グランチャコは、「乾燥したチャコ」「平らなチャコ」と呼ばれ、アマゾンの次に広大な森林を保持しており、当然ながら多くの動物と植物が生息している地域です。グランチャコの人口はもとも少ないために自然は保護されてきました。しかし、経済発展の余波を受けて、建築資材、木炭生産などで森林伐採が行われ、また家畜の増加、食糧増産などによってさらに森林伐採が進んでいるのです。世界自然保護基金(WWF)は、動植物の減少に警鐘を鳴らしています。



一部が整備されたチャコ縦断道路。レオ、グアラニー、イシルといった先住民グループが暮らしています。彼らは小さな農地を抱え、狩猟や採集などで生計を立てています。巨大な大陸の東と西を道路で結ぼうというビッグプロジェクトは、さまざまな難題を抱えながら進んでいるのです。経済の発展は人々にある種の幸福をもたらすことですが、それを手にする時には、掛け替えのないものを失ってはならず、いかにバランスの取れた「開発」であるかという観点が重要となるのです。

幸か不幸か、この南米横断道路は、私たちが手掛けているレダ開拓地の近隣を通るのです。レダ開拓があらゆる人々の幸福と平和のビジョンの実現にあるとするなら、この好機を逃さずに、我がこととして捉え、ビジョンの更新を進めていく必要があります。私たちの未来は、もはや夢ではなく、現実的な重みを持って進んでいくこととなります。

参考資料

- ◆ JICA 独立行政法人 国際協力機構 「パラグアイの地方道路整備事業」 報告、◆ ジェトロ 日本貿易振興機構 「パラグアイのインフラ」
- ◆ GNV 「南米大陸横断回廊と内陸国パラグアイ」
- ◆ 地球探検 「パラグアイ通信」(12)、その他



助手のレアンドロさんの家族を訪ねて。

Q 日本と世界の皆様に何でも一言どうぞ。
 A レダはすべての人が集い、修練を受ける場所だと思えます。そこは先ず天を愛し、次に人を愛し、そして



オニテナガエビの成体を観察する岩本君。

Q レダで最もうれしかったことは？
 A レダプロジェクトが存在することの意味を知ったこと、そしてパンタナールで歩まれた文師ご夫妻の後ろ姿を見ることができたことです。
 Q 今後の抱負は？
 A レダの発展と、その理想の実現を目指して、さらによく準備して向かっていきたいです。

岩本聖義(いわもとせいぎ)君 岩本君は昨年3月から約1年間、レダで熱心に奉仕活動に励みました。主としてエビの養殖研究に取り組み、その勤勉さ、責任感、研究マインドには定評があります。現在、レダに再び長期で赴くための準備をしています。

Q レダに初めて到着した時の印象は？
 A 先輩方の力強い聖歌に感動しました。そして、自然が豊かで、空が広いことです。
 Q レダでは何を担当していましたか？
 A 水産、特にオニテナガエビの養殖です。
 Q レダでの活動中に最も苦心したことは何ですか？
 A 言葉が通じないため、スペイン語を猛勉強し、ジェスチャーも交えて何とか会話したことです。

て万物を愛する実践ができる場所です。

あなたの腕と経験をレダで活かしませんか(2)

レダでは技術を持ったシニアの力を求めています。これまでの人生で培った腕を、価値ある場所で活かしてみませんか？ 第二の人生の場を求めている方、より大きな世界で働きたい方、自分自身を超えて完全燃焼したい方、レダがあなたを待っています。

■上下水道の施設管理者…レダの水道の原水は、すべてパラグアイ川から電動ポンプで汲み上げています。沈殿、濾過、殺菌の処理を経て給水塔に送られ、水道網によって各施設に供給されます。水は生活インフラの最重要部。きれいで安全な水をつくり、安定的に供給するために、担当者は他の任務と掛け持ちで、時には眠る間もなく奮闘しています。また下水は、建屋ごとに浄化槽を経て、川に戻されます。これらの設備は既に20年以上使用され、老朽化が進行。今後レダの発展と共に、住人の数も増えていくことから、上下水道の強化と拡充が必要になります。中水道の導入も、将来の検討課題の一つです。

■農業技師…レダには広大な土地があります。そこにパンタナールの雨季と乾季とが毎年やってきます。野生の植物はさまざまに生命力で成長・繁茂しますが、農作物には人間の知恵と愛のある介入が不可欠です。レダ農場では自然本来の力を引き出す農法を追究してきました。そのために、頑固な粘土層、野鳥による食害、地下からの塩害、ダニ、アリ、暴風、ほか幾多の難題と取り組んできた、歴代の農業担当者たちの苦闘には涙ぐましいものがあります。

この2年間は、大元氏が各種の農業試験に忍耐強く取り組んできました。大元氏のレダ滞在中(あと1年間)に元気なシニアや青年が来て、蓄積された知見を実地で相続してくれることが望まれます。将来は、森林農業や持続可能な土壌改良などにも挑戦したいところです。お問い合わせは下記の事務局へ。



**一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局**

〒213-0001
 神奈川県川崎市高津区
 溝口3-11-15
 岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821
 FAX: 044-829-2820


支援金振込口座: ゆうちょ銀行
 記号10280 番号61349751
 一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com
 ホームページ: https://asd-nsa.com
 Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット(印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。

入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。



<https://asd-nsa.com/nk/>

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>